



うちこ福祉館だより



令和3年
3月発行
電話・FAX
44-3410

うちこ人権映画祭

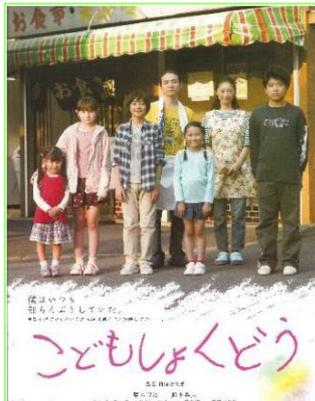
二月十八日(木)、うちこ人権映画祭を行いました。

昼間は、内子中学校三年生の皆さんにクラスごとに分かれて鑑賞していただきました。当日を迎えるにあたって、人権・同和教育担当の先生ほか、校長先生や多くの教職員の皆様にご協力をいただいで、例年とは異なるコロナ禍での映画祭を安全に行うことができました。



昼の部。内子中学校武道場にて。

誠にありがとうございます。続く夜間には、うちこ福祉館において一般の方を対象に、人数を制限して行いました。大変寒い中ではありましたが、熱心に鑑賞していただきました。



©2018「こどもしょくどう」製作委員会

今年度は「こどもしょくどう」という作品を上映しました。豊かに見える日本社会の中で、十分な食事をとることのできない子ども達のよりどころとなる《子ども食堂》が、地域の新たなコミュニティの場として全国各地に広がっています。なぜ今《子ども食堂》が必要とされているのか…。そのテーマを子どもの視点から描き出した作品です。



夜の部。うちこ福祉館にて。

鑑賞された方からは「大人は見ているだけで何もしてくれなかった。」という言葉に、自分は行動に移せるのか考えさせられた。」「継続して手を差し伸べることが大切。すべての人権問題・同和教育にも関わることだと感じた。」など、感想が寄せられました。

人権とは「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」です。映画の主題歌の中に、**食べることはいいのち、食べることはつながり、食べることはぬくもり**、という歌詞が出てきます。私たちに欠かすことのできない人権そのものを表しているように感じられました。

押花教室

二月十五日(月)、西瀨和美先生を講師に招いて押花教室を行いました。

今回の教室は特別講座として、空き箱などを活用し布を張って華やかに仕上げる「カルトナーージュ」を教えて頂きました。

概ね一時間半の作業でしたが、写真のように彩り豊かな宝物が入るのでしょつか。



試行錯誤しながらも完成です。



押し花を使った作品作りに興味がある方は、ぜひお申込みください。(来年度からの受講となります)

男性健康講座

二月十六日（火）、男性健康講座を行いました。健康や栄養について知りたいけど自信がない、といった方でも気軽に参加しやすい場所を作りたいとの思いから、初めて企画しました。



前半はためになる話が沢山の講話。

はじめに、内子町管理栄養士の酒井涼香さんから「料理の基本」と題して講話をしていただき、続いて「バランスの良い料理」をテーマとした料理を作りました。

コロナ禍での調理実習ということで、お弁当形式とし、完成した特製お弁当は持ち帰っていただきました。

第3回健康講座 ご案内

講 話：調味料のヒミツと使い方
調理実習：骨を強くする料理
講 師：内子町管理栄養士
酒井涼香 さん

日 時：3月24日（火）午前9時半～
場 所：うちこ福祉館 会議室・調理室
定 員：14名
参 加 費：300円（当日集めます）
そ の 他：マスク・エプロン・頭巾を
持ってきてください
申 込：3月16日（火）まで

今年度最後の健康講座です。ぜひご参加ください。新型コロナウイルス感染症の対策のため、急な変更・中止の可能性がります。

来年度も様々なテーマで開催できるよう準備を進めています。



愛媛から生まれた シトラスリボンプロジェクト

愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色（黄色や緑など）のリボンや専用ロゴを身につけて「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。リボンやロゴで表現する3つの輪は、「地域」「家庭」「職場または学校」です。身元調査お断り運動のステッカーによる啓発活動と同じように、身につけることで「私は差別をしません」という意思を伝えるものです。



なくそう「コロナ差別」

感染症への不安や恐れから、感染者や医療従事者、その家族に対して、差別や偏見、いじめ等の人権侵害が起きています。

一方で、医療現場で治療に当たっている人たちなど、私たちの命や生活を守り支えてくれている人たち（エッセンシャル・ワーカー）に対して、さまざまな形で感謝とエールを送る活動が広がりをみせています。

愛媛県においても、コロナ禍を自分の身に置き換えて、「ただいま」「おかえり」とお互いに言い合える安心・安全なまちにしていこうと、シトラスリボン運動の取り組みもはじまりました。こうした感謝・支え合いの気持ちを忘れることなく、一人ひとりができることを実践していきましょう。

コロナウイルスが「悪」であり、感染者には何の問題も責任もありません。感染者や医療従事者、その家族への偏見や差別・誹謗中傷などの人権侵害をしない・させない・許さない行動をとりましょう。